

この度、世界中の癌治療に携わる医療関係者が集まる最大規模の学会、2010 ASCO Annual Meeting に参加させていただきまして感謝しております。ASCO への参加は今回が初めてで、とても大きな刺激を受けました。改めて、世界に目を向け大きな視野にたつて医学を志し、日々研鑽をつむことの重要性を痛感いたしました。以下に、私の印象を記載させていただきます。

2010 ASCO が開催されたアメリカ・シカゴのマコーミックコンベンションセンターはとても巨大な会場でした。しかし、部屋番号が極めて合理的に割当てられており、私を含め出席者が迷うことはありません。その広大な会場が医療関係者で埋め尽くされ、その熱気に圧倒されるものがあります。これほど大規模な学会がたびたびシカゴで開催されるのは、世界中からのアクセスがよいハブ空港があるからでしょう。日本からも成田からシカゴへの航空直行便があります。

学会会場では ASCO Daily news, ASCO TV により、発表された中でも特に重要と思われる内容が報道されていました。報道は英語と日本語でされており、世界において日本がいかに重要とみなされているかを改めて感じました。

胃癌治療において、日本を筆頭とするアジア、アメリカを筆頭とする欧米では標準治療や治療成績が異なります。しかし、各国の発表の中でも日本でのエビデンスが紹介されることもあり、自国のみでなく世界的な立場で癌治療のエビデンスを確立しようというスタンスを強く感じました。

口演だけでなく重要なポスター発表も、引き続きディスカッションで専門家が臨床試験の背景、意義、解釈、今後の展望を簡潔に論評し、専門分野でなくともその臨床試験の重要性が十分理解できる構成となっていました。発表される演題の質が高いからこそ成り立つプログラムだと思います。どの発表も綿密な計画により実施された臨床試験をもとにしており、この場所で発表の場を与えられるのは大変名誉なことであると感じました。

また、大規模な第3相臨床試験でかなりの費用がかかったと推測される試験が、たとえその結果が **negative** であっても発表されていたのが印象的でした。質問者からは試験をやり遂げられた労力に対する温かい言葉もあり、聴衆から

も拍手が送られていました。質の高い臨床試験を実施する重要性、日々の臨床の中で高いエビデンスを確立していかなければならないという臨床医の使命を改めて認識いたしました。

以上、私が強く感じたことを書かせていただきました。このような大きな学会は、世界における癌治療のエビデンス確立の瞬間を経験する素晴らしい機会であり、またそのような新規エビデンスを自分たちの手で確立できるよう臨床試験を推進する必要性を再認識する機会でもあります。今後とも若手医師の派遣を継続していただけるようお願いしたいと思います。

最後に、今回このような素晴らしい機会を与えていただきました JACCRO 関係者の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、JACCRO 臨床試験の成功と、その成果が ASCO で発表されることを祈念致します。